

わたしの町
ほくの町の



HAND IN HAND

がいろじゅ

街路樹調査大作戦！

～街路樹から、なにがみえてくるのだろう～

あなたのすんでいる町には、どんな街路樹がありますか。

川ぞいのヤナギの並木。大通りのケヤキの並木。

学校の校門からつづくサクラの並木。駅からメイン通りにつづくイチョウの並木……
まわりを見回してみると、都会にも木がたくさん植えられていることに気づきます。

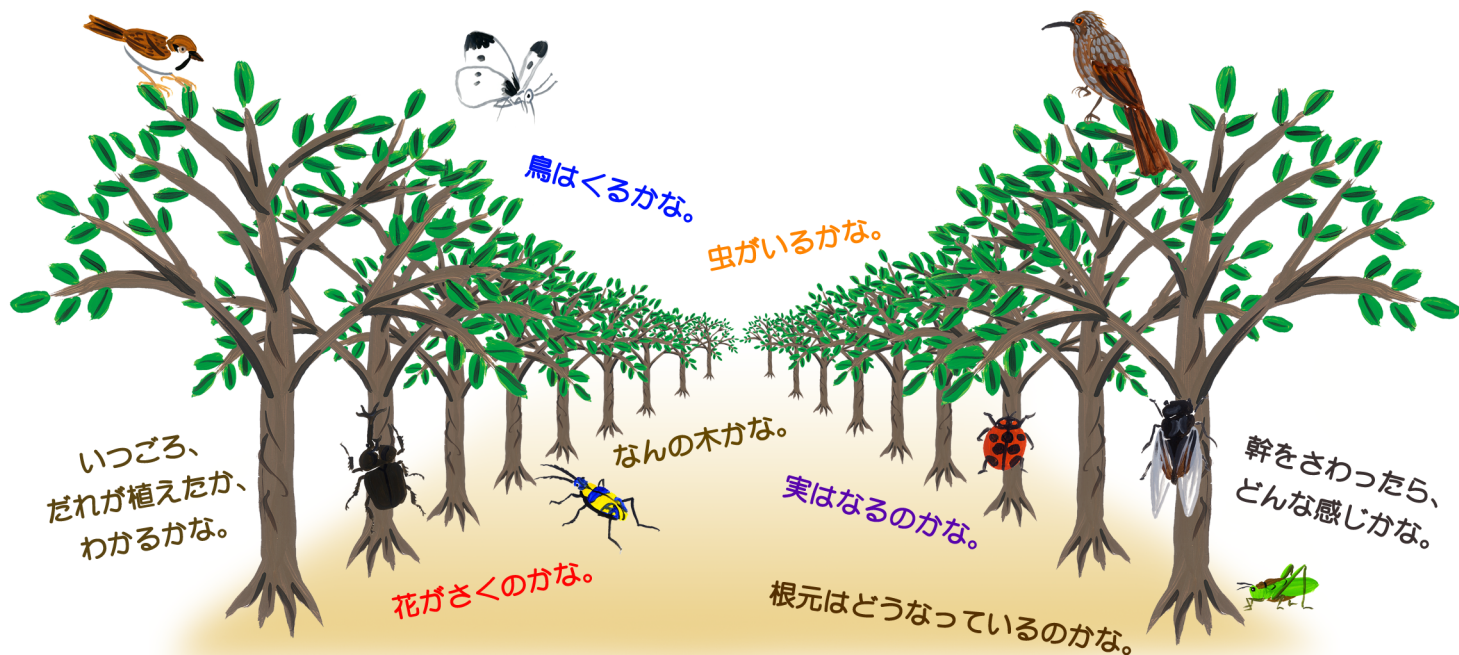
ふだんは気にもしない街路樹ですが、森の木と同じように二酸化炭素(にさんかたんそ)をすって、
酸素(さんそ)を作り出していますし、鳥や虫たちの家にもなっています。自然がそこにあるのです。

そこで、今年HAND IN HANDでは、身近な街路樹を、みんなで観察調査しようという

「わたしの町・ほくの町の街路樹調査大作戦」を行うことにしました。

日本のいろんな町の街路樹を、子どもの目でいっせいに調査したら、一体なにがみえてくるでしょう。

あなたも、調査大作戦に参加しませんか。



～ 富山和子先生（街路樹調査大作戦 総合監修）からみなさんへ ～

日本の並木道は、街道を歩く人たちの命を守りました。

旅人は暑さや雨を木陰でしのいだり、木の実を食べたり、夜は木の根元で眠ったりしました。

今、街路樹と私たちは、どんな交流をしているのでしょうか。

みなさんの調査報告を楽しみに待っています。

◎ 富山和子先生・・・評論家、日本福祉大学教授、立正大学名誉教授。

水問題を森林林業の問題にまで深めたこと、また「水田はダム」の理論でも知られ、その総合的な研究は「富山学」と呼ばれている。著書「水と緑と土」は30年を超えるロングセラー。『川は生きている』など「生きているシリーズ」も小中国語教科書に載っているほか、大学入試にも出題されるなど、教育や行政の現場で広く活用されている。いずれも環境問題のバイブルといわれている。